

主 題：クリスチャンの交わり

聖書箇所：ヘブル人への手紙 10章24-25節

先ず、皆さんへの感謝と神を称えることから始めさせていただきます。夏の泉佐野聖書教会の働きのために浜寺から多くの方々が来てくださり、それによって神の働きが成されたこと、そして、このように皆さんを遣わしてくださった神とともに誉め称えたいと思います。皆さんのサポートがなければ、夏の働きは成されませんでした。神が皆さんを用いてくださっていることはすばらしいことです。そして、この夏から、私自身、非常にたくさんの交わりを持つ機会がありました。宣教師たちが来てくれたことはすばらしい交わりの場でした。最初に始まったのは8月16日、インマヌエル・バイブル教会の宣教師たちが来て、歓迎の交わり会を持つことができました。そして、この日から始まって、18～22日までJOYJOY5DAYSを持つことができました。そこでは奉仕を通して交わりを持つ機会が与えられました。そして翌日の23日、彼らが帰るということで感謝会を通してまた交わりを持つことができました。そこで本当に感謝だったことはたくさんの方々が証をしてくださって、ともに神を崇める場としてその交わりが用いられたということです。本当にすばらしいときであったと私自身感謝しています。

そして、まだまだ続きますが、翌週30日、浜寺で教会全体の交わり会が持たれ、そこでもまたすばらしい交わりの機会が与えられました。私自身が神に感謝をささげることができたのは、私の小さい時の写真が出て来たのですが、分かった人、何人ぐらいいらっしゃいますか？見られなかった方は何かの機会に見てくださったらと良いと思います。小さい時はポッチャリしていたので、いとこたちに会うと「饅頭」と言われていたのですが、その写真を見て今の自分を考えたときに、神はこのように成長させてくださったと、神に感謝をささげる機会を持つことができました。他にも何人かの小さい時の写真がたくさん出て来て、今と変わらない人や「えっ、この人は？」と思う人やいろいろあったのですが、その人が成長して今に至っているのを見る時に、神に感謝だという思いを持つことができました。30日は非常にハードスケジュールで、浜寺の交わり会が終わってから、当日、美浜バイブル・バプテスト教会の内藤先生が来ておられましたから、浜寺の後、泉佐野でも交わり会を持つことができました。そこで私自身がいろいろと考えさせられたことは、内藤先生は車いすで生活されて、車いすで牧会をされておられますが、先生が献身されてどのように歩いて来られたかという話を聞くことができたことです。そこには内藤先生の神学生時代を知っておられる方が来られていました。そのときの話も聞くことができすばらしい交わりのときでした。先週は少し休憩をもち、今日皆さんと礼拝を通してこのように交わりが与えられています。このようにすばらしい交わりの機会が続いているのであります。

この「交わり」ということを考えるとき、皆さんにお聞きしたいのですが、クリスチャンにとって最も必要な交わりとはどのような交わりでしょう？それは本来すべての人間にとって必要な交わりです。それは神との個人的な交わり、神との関係を持っていることです。これはまた、クリスチャンにとっても一番重要な交わりであるはずですが、そして、私たちが神との交わりをもつことができるために、イエスが十字架に掛かってくださったのです。今日、皆さんといっしょに学びたいヘブル人への手紙の、特に、9-10章を見る時、イエスご自身が完全ないけにえとしてささげられたことが分かります。イエスの完全ないけにえ、その十字架のわざが神との交わり、つまり、私たちと神との関係を回復させてくださったということが記されているのです。ヘブル10:19-20にはこのように書かれています。「**こういうわけですから、兄弟たち。私たちは、イエスの血によって、大胆にまことの聖所にはいることができるのです。:20 イエスのご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのためにこの新しい生ける道を設けてくださったのです。**」、イエスの血によって、イエスが為された十字架の死によって流してくださった血潮、それによって「**新しい生ける道を設けてくださったのです。**」、イエスが完全ないけにえとしてささげられた、それによって私たちが神との関係を持つ道が備えられたのです。だからといって、すべての人が神との関係を回復したかということ、そうではないのです。このキリストを個人的な救い主と信じた者が、神との関係を持つことができるようになったと言います。それゆえに、22節「**そのようなわけで、私たちは、心に血の注ぎを受けて邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われたのですから、全き信仰をもって、真心から神に近づこうではありませんか。**」と述べています。確かに、私たちは罪をもち、罪深い歩みをし、罪の生活を送っていた者ですが、イエス・キリストを信じる信仰によって神が義と認めてくださった、だから、それゆえに神の前に大胆に出て、神との関係、神との交わりをしっかりと保って行きましょう、また、それが出来るのだと、そのことを教えてくれているのです。

このように、まず、私たちにとって一番必要な交わりは、神との交わり、神との関係である訳です。

そして、このみことばは兄弟姉妹たち、つまり、クリスチャン同士の交わり、その関係も非常に大切であると教えています。ある人はこのように考えるかもしれませんが。「私はしっかり自分で信仰を持っているから、特に、交わりなど必要ない。私は一人で信仰生活を送って行くことができる。」と。私自身も、かなり前ですが、信仰を持ってまだ日が経たない頃ですが、交わりの必要性を感じるができなくて、いろいろな人が誘ってくださっても、何とか理由を付けてその集会に出ないようと、そのようなことをしていました。それはクリスチャン同士の交わりをよく理解していなかったゆえに、そのようにしてしまっていたのです。では、クリスチャンの交わりとはどのようなものでしょう？皆さんはどのように答えられますか？このヘブル書の著者は、その交わりとはこのようなものだと答えています。

ヘブル人への手紙10：24-25を読みましょう。「**また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。：25 ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。**」。著者は「クリスチャンの交わり」についてこのように述べているのです。この聖句から聖書の教えるクリスチャンの交わりについてともに見て行きたいと思えます。クリスチャン同士の関係とはどのようなものであるか？クリスチャンが集まるとき、それはどのような集まりとなるのでしょうか？そのことを学ぶことによって、この教会の交わり、また、皆さんが持たれている交わりが本当に正しい交わりの場になるようにと願います。

☆クリスチャンの交わり

1. 交わりの内容

聖書の教える交わりについて、まず、その内容を見て行きましょう。先ほど質問しましたが、クリスチャンの交わりとはどのようなものか？その答えがここに記されています。三つのことを見ることができます。

1) 与え合おうとする

自分が受けようとする、そのような交わりではないと教えています。以前、私たちの教会に一人の男性が訪ねて来られました。私に対応しましたが、少し話して教会の案内を渡しました。彼はそれを見て、一つの項目を指して興味深げに質問されました。「青年会の交わりとありますが、どんな交わりなのですか？」と。ともに聖書のみことばを見て学んだり、いっしょに賛美をしたりする、そのような集会ですと簡単に説明したのですが、それを聞くと「ああそうですか」と興味なさそうに去って行きました。私の推測ですが、その人はその交わり会に出ることによって、自分に何か得ることができると、そのように考えていたのではないかと思います。自分にプラスになることがあると期待したけれど、私が違った答えをしたために「自分とは関係ない」と思われたのかもしれませんが。

みことばが教えることは、特に、クリスチャンの交わりにおいてはこのように何かを受けようとするものではなく、お互いに与え合おうとするものだという事です。24節に「**…促すように注意し合おうではありませんか。**」とあります。ここで使われている「**促す**」ということばですが、一般的には「勧める、催促する」という意味です。「良ければどうですか？」という非常に弱いアプローチ、弱い勧めであるかと思えます。でも、ここで使われている原語の意味は、非常に強い意味があります。「刺激、激励、鼓舞する」というそのような意味があることばなのです。つまり、弱い勧めではなくて非常に強い勧めであって、そして、それを聞いた人が心からやる気を起こすという、そのような意味です。だから、その人に刺激を与えるのです。「何かしなければいけない」と、そのような思いを抱かせることばが使われているのです。そのようなインパクトを与えるのです。そして、「**注意し合おうではありませんか。**」ということばですが、「注意する」ということばは「間違いを指摘する、過ちを指摘する」という意味ですが、ここで言われている「**注意し合う**」ということばには様々な意味があります。「認める、理解する、また、注意深く観察する」と、そのような意味を持っていることばです。ただ単に、注意するだけの意味ではありません。つまり、相手をよく観察して、また相手のことを良く認めて、そして、その人のことを理解する、そのような意味があるのです。「**促すように注意し合う**」ということばを考えたとき、相手に刺激、やる気を起こさせるために、相手をしっかり観察しなければいけません。そして、その人を理解し認めて、その人に必要な刺激を与えること、それがここで言われている「**促すように注意し合う**」という意味合いなのです。

そして、また、24節ではこのようにも語っています。「**互いに勧め合って、**」と。先ほどと同じように相手がいるのです。相手に刺激を与え相手を観察し相手を認める、そして、またここでも「**互いに勧め合って**」と、相手のために、だれかのために何かを為す、それがこの交わりであると言うのです。もし、ここに集まっている皆さんが、一斉に自分が受けることだけを考えて、それを行動にするとどうなるでしょう？つまり、自分がしたいことをその場でし始めたら、また、自分の求めていることだけを求めてそのことを為そうとするなら、そこには決して一致というものが生まれません。一致ではなく、そこには争いが出て来ます。なぜでしょう？自分勝手なことを互いに言い合うから、当然、そこには意見の違い

考えの違いから争いが生まれて来るのです。

自分が何か受けたいという思いではないのです。この中には今本当に喜んでる人もいるでしょうし、非常に悲しんでいる人もいるでしょう、またいろいろな困難な状況にいる人たちもいます。そのような一人ひとりが周囲のことを気遣って、お互いのことを思いやって、先程見たように、「**促すように注意し合う**」、そのことを為して行くなればそれが「**交わりです**」と教えてくれているのです。そして、それによって私たち一人ひとりが成長して行くことが出来る、霊的な成長ができると言うのです。ローマ人への手紙14：18-19を見てください。「**このようにキリストに仕える人は、神に喜ばれ、また人々にも認められるのです。：19** **そういうわけですから、私たちは、平和に役立つことと、お互いの霊的成長に役立つこととを追い求めましょう。**」とあります。キリストに仕える人とは、クリスチャンである私たち、皆さん一人ひとりのことです。その人たちは神に喜ばれ、また、人々にも認められる、そして、彼らは「**お互いの霊的成長に役立つこととを追い求める**」と言います。みことばが教えているのは、自分のためではない、お互いに相手のために、霊的に成長するために必要なことを求めて行きましょうということです。

また、パウロはこのように言っています。ガラテヤ6：2「**互いの重荷を負い合い、そのようにしてキリストの律法を全うしなさい。**」、互いの重荷を負い合うことによって、互いの必要を補うこと、また、お互いに注意し合うこと、仕え合うこと、それによって律法が全うされる、キリストの教えが全うされると、みことばはそのように教えているのです。

まず、このようにみことばが教えている「**交わり**」とは、自分が受けようとするものではなく、互いに与え合うこと、与え合おうとすることです。皆さん、そうですね？今日、この礼拝という場が集まって来られて、どのような思いを持って参加されていますか？私たちの神を称えるという大前提があるのですが、その他にも、私たちはお互いに兄弟姉妹としていろいろなことを話します。兄弟姉妹のために、クリスチャンのために与え合おうという思いを持って来られているのでしょうか？自分が受けようという思いをだけを持って来られていませんか？みことばが教えていることは、交わりの場とは与え合う場、それがクリスチャンの交わりであるということです。確かに、与え合うのが交わりだと分かるが、自分ではなかなか積極的に与え合うことができないと考えてしまいませんか？一つ言えることは、礼拝や集会に参加する、そのこと自体が周囲に励ましを与えるものであるということです。

泉佐野には86才の婦人の方がいらっしゃいますが、その方が時々このように言われます。「私は何もできることがありません。何も与えることがない。」と。でも、その方は礼拝、学び会に出席され「全部は到底分からないけれど参加できて楽しかった。」と、そのように言われます。そして、彼女がいつもして来られることがあります。それは暗唱聖句です。暗唱聖句を覚えて、学びが始まる前にきちんと言うてくださるのです。同じ学びに出ている人がそれを見て、その方も70歳を越えているのですが「この方も頑張っておられるのだから、私も頑張らなければいけない。励ましが与えられた。」と、そのように言われます。このようにどのような機会でも、お互いに励まし合うことができると言えます。交わりは受ける場ではなく「**与え合う場である**」と言うことができます。しかし、与え合うということを考えると、確かに他の人を見ます。他の人を見て何か必要なものを与え合おうとする時、私たちが注意しなければいけないことがあります。相手のことを観察してその人を認めて理解するとき、注意しなければいけないことがあるのです。それが二つ目に見る「**交わりの内容**」です。

2) 愛による交わりであること

最初に、与え合う場が交わりであると見ました。でも、その交わりの場には「**愛**」が中心にあると語っています。「**互いに勧め合って、愛と善行を促すように**」と記されています。私自身もそうですが、人をよく観察するとき、そこには「**高ぶり**」という思いが出てしまったり、また、自己卑下してしまうということが起こります。それは間違ったことです。なぜそうなるのでしょうか？与えるためによく観察するのですが、その人が余りにもすばらしい歩みをしていると、その人と自分を比べて「**アー、自分は何とダメなんだ**」と思って自分を卑下してしまうのです。また反対に、自分と比べて正しい信仰生活の歩みが余り出来ていない人を見ると、「**アー、この人は何とダメなんだろう**」と、高慢な思いを持ってしまい兼ねません。でも、そこに愛があるとき、その高慢さや自己卑下が消されるのです。

確かに、すばらしい歩みを為しているその人を見て、「**あの人は神さまに用いられている、神さまに従順な人だ。それゆえ、私もそのように見習って歩んで行きたい**」と思って、その人を本当に愛をもって見るなら、決して、自分を卑下するのではなく、その人を認め受け入れることができるのです。しかし、自分が愛をもっていないとき、また、自分よりも良い歩みをしていないその人を見ると、本当に愛をもって見るなら、確かに、良くない状況であるかもしれないけれど、その人のために私に何か出来ることはないだろうか、そのような思いを持つことができるのです。愛がなければ高慢になったり自己卑下に陥ったりするのです。

皆さんはいかがでしょう？ご自身の交わりを見た時、愛の思いをもって行なっておられるでしょう

か？ガラテヤ5：13には「兄弟たち。あなたがたは、自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕えなさい。」とあります。「召された」とはそれはクリスチャンであるということです。神によって召された人が「肉の働く機会」、つまり、自分の好き勝手な思いをするために召されたのではない、却って、「愛をもって互いに仕え合う」ために召されたのだから、そのようにしなさいとパウロがここで語っているのが分かります。私たちは愛の思いをもって思いやりを為しているのでしょうか？そして、本当に心のうちに愛があるならあるものが伴って来ます。私たちが愛をもって接しようとするとき、愛をもって互いに与え合おうとするとき、そこには「行動」が伴って来るのです。確かに、ことばでは簡単に「私はあなたを愛していますよ」と言えますが、本当にそこに愛があるならそこから行動が伴って出て来るはずで

3) 善行による交わり

だから、ヘブル10：24には続けて「…善行を促すように」と書かれています。そこに愛があるならそこには良い行いが伴って出て来る、それが交わりであると言うのです。ここで考えたいことは、「善行」とは字の通り「良い行ない」ですが、皆さん、何が「良い行ない」だと思いますか？多分、ここで皆さんに聞くなら、それぞれに「良い行ない」が出て来るでしょう。ここで言われている「良い行ない」とは何でしょう？コロサイ1：10を見てください。「また、主にかなった歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうちに実を結び、神を知る知識を増し加えられますように。」とあります。その人の歩みが「主にかなった歩み」であるゆえに、「主に喜ばれる」ものであると言います。そして、それが善行の歩みであり、実を結ばせるものであると。そして、その歩みとはどのようなものか？最後に、「神を知る知識を増し加えられますように。」と書かれています。「善行」はそれを行なうことによって、より神を知ることができると言うのです。神を崇めることができると思えることができます。まさにこのようなことをしましたよと言うとき、そこで終わっているのではありません。確かに、人から見てすばらしい良い行ないはいろいろあるでしょう。でも、本当に良い行ないとは、その行ないを為し終わった後、これは神が私を通して為してくださった、また、このような私を用いてくださった神の力を改めて知り、その神のすばらしさを知ることができるのです。だから「神の知識を知る知識を増し加えられますように」と、そのような善行を為すとき神の力を知り、そして、神を崇める者になることができるのです。

私たちの交わりを考える時、まず、愛の思いを心に持ち、そして、愛の思いをもつゆえに、良い行ないがそこでなされている、そのようになっているのでしょうか？そして、良い行ないをしたゆえに、より神を知り、神を崇めているのでしょうか？それが為されているのが「交わり」なのです。ヨハネはその手紙の中でこのように記しています。Iヨハネ3：18「子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行ないと真実をもって愛そうではありませんか。」、口先だけでなく行ないと真心、真実をもって愛すると言っています。

交わりの内容を見て来ました。皆さんはどのような交わりをされていますか？確かに、いろいろな交わりがあります。教会の大きな交わりがあります。また、個人が為す小さな交わりがあります。また、家庭も交わりの一つと考えることが出来ます。これらの交わりすべてにおいて、皆さんはどうでしょうか？見て来た通りのことをしておられますか？与えようとする場であり、本当に愛をもって、それゆえに、良い行ないをもって互いに歩んで行く、そのようなクリスチャン同士の交わりであるようにと教えられています。

2. 交わりの必要性

では、なぜ、交わりが必要なのでしょう？そのことを著者は続けて教えています。二つのことを見ましょう。

1) みことばの実践の場として

みことばを聞くだけでなく、実践する必要がある、実践の場として交わりが与えられているのです。24節で見て来たことですが、交わりは一人で出来るのでしょうか？「互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。」とある通り、一人ではないです。つまり、交わりは必要であり、そして、それはみことばを実践するための場として必要であると言うのです。25節にはこのように記されています。「ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い…。」この当時のクリスチャンたちも、実際、「集まる必要はない、集会に出る必要はない」ということがあったのです。「あの人たちがしているように、いっしょに集まることをやめてはいけません。そうではなく、いっしょに集まりなさい。ともに集まる必要がある。そして、その集まりによってみことばを知る必要があるのだ。」と言うのです。

「かえって励まし合い…」と、「励まし合う」ことは一人ではできません。だから、互いに集まって励まし合う必要があります。ここで使われている「励まし合う」ということばは、原語の辞書を見ると、様々な意味があります。「願う、勧める、訓戒する、元気づける、」そして、ここで使われている「慰める」と、

このようにたくさんの意味をもったことばが使われているのです。このことばは二つのことばが合成されて一つのことばになっています。「かたわらに」と「呼ぶ」という二つのことばです。私たちは励まし合うためにどうしますか？どうぞ、私の隣に来てくださいと傍らに寄ります。そして、その人に話しかけて行きます。ときには元気づけ、ときには訓戒し、厳しいことを言うことがあるかもしれません。あるときには慰めを与える、それがここで使われている「励まし合う」ということばです。

そして、何をもって励まし合うのでしょうか？当然、みことばに記されていることをそこで話し合い、注意し合い、そして、勧め合うのです。それが交わりの場であると言うのです。Ⅱコリント1：4を見てください。「神は、どのような苦しみのときにも、私たちに慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができるのです。」、まず、神が私たちに慰めてくださった、それゆえに、私たちは神から本当の慰めを受けている人、慰めを理解している人、人に慰めを与えることができる人である、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができることを教えているのです。実際、みことばの実践であるのです。このことを考える時、皆さんの交わりを考える時、その交わりの中でみことばが実践として用いられていますか？お互いに愛を示し合い、善行が行なわれ、互いに自分は受けようとするのではなく与えようとする、そのような実践の場として用いられていますか？たとえ、何人、何百人、何千人のクリスチャンが集まったとしても、このことが行なわれていないなら、それはみことばが教えている正しいクリスチャンの交わりとは言えないのです。交わりはみことばを実践する場所として必要であるのです。

2) 実践によって神の栄光が現われるときとなる

では、実際に皆さん一人ひとりがみことばを実践しているなら、そこで何が起こるでしょうか？また、個人の集まりによって何が起こるでしょうか？その場において神のご栄光が現わされるのです。ヘブル書に戻って、25節の後半には「かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。」とあります。「かの日」とは何の日のことでしょうか？「近づいている」ということばは聖書の中では余り使われていません。しかし、ヤコブの手紙5：8には「あなたがたも耐え忍びなさい。心を強くしなさい。主の来られるのが近いからです。」とあり、ここでは「近づいている」と同じことばが使われています。つまり、「主の来られるのが近いから」、イエスの再臨のことを教えているのです。今にもイエスが迎えに来てくださる、だから、より一層、みことばを実践して行きましょう、互いに集まってみことばを実践して行きなさいと、そのように教えているのです。

イエス・キリストが私たちに迎えに来てくださったとき、私たちにはずばらしいことが与えられます。ピリピ3：20-21を見ましょう。「けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。：21 キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。」、「かの日」、イエスが来られるとき、私たちはイエスと同じご栄光のすがたを得ることができると、そのことが記されているのです。「では、私たちに栄光のからだをもらえる約束が出来た。後は自分の好き勝手に歩もう。」と、そういう訳ではありません。私たちはイエスが迎えに来てくださるまで、日々イエスに似た者へと変えられて歩んで行く必要があるのです。それがみことばの実践です。みことばは実際にイエスの望んでおられること、神の基準を記しています。私たちがそれを行なって行くなら、日に日に私たちはイエスに似た者へと変えられて行くのです。

パウロはこのように記しています。Ⅱコリント3：18「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」、私たちがみことばを実践して行くとき、私たちはこのように変えられて行くのです。私たちが変えられて行くゆえに、神のご栄光がその場に示されるのです。みことばが実践され、神のご栄光が現わされる、その場として、そのために交わりが必要であるとみことばは私たちに教えています。

ここで考えたいことは、皆さんの交わりは神のご栄光を示されておられますか？神が崇められていますか？確かに、礼拝ではみんなで神を崇めています。皆さんが小さいグループで集うとき、また、家庭の中であって、本当に神が崇められているのでしょうか？ご栄光が現わされているのでしょうか？自分のことばかり話してしまっているというようなことはありませんか？自分は今このことを話したいと、それゆえに、せっかくの交わりであるはずなのに、神が中心なのに、神が端の方に追いやられているというようなことはありませんか？確かに、自分のことを話すことが悪いものではありません。話すことによって神が崇められているかどうかということを、私たちは考える必要があるのです。

例えば、すばらしいことがあったとして、「昨日、私にこんなにすばらしいことがありました」と話することは悪いことではありません。でも、そのように話ただけで終わってしまうことはありませんか？「こんなに嬉しいこと、すばらしいことがあった、神はこのようにことをなさったのです。だから、

いっしょに神さまを崇めてください。」と、そのような交わりの中となっていて、確かに、自分のことを話しても、そのことを通して神が崇められているのでしょうか？このようにしてすべてのことが神を称える場となっていくとき、神のご栄光がその場であって現わされるのです。

最後に、冒頭に話したことですが、IBCの宣教師たちとの感謝会の際、一人の宣教師がこのように証をしてくださりました。その方は初めて日本に来られたので、泉佐野と浜寺との関係をよく分かっておられなかったのかもしれませんが、毎日、浜寺からたくさんの奉仕者が来てくださって、泉佐野の働き人よりも浜寺から来てくださる方が断然多いという、そのような状況で JOYJOY5DAYS が為されたのですが、浜寺と泉佐野がお互いに仕え合っているのを見て、互いに愛の実践が為されていると、そのことを教えられたと語っておられました。また、それだけでなく、自分がいかに愛によって仕えていないかということを示されたと、そのような証をしてくださったのです。JOYJOY5DAYS という奉仕における交わりですが、そのことを通してその宣教師の方は刺激を受けられたのです。

「本当に愛における交わりとはこのようなものだな。自分にはその愛が足りなかった。」と、その証を聞いた時、本当に神がこの働きを通して素晴らしいことを為してくださった、この交わりを通して神が様々なことを教えてくださったと、私自身、心の中で感謝をささげることができました。考えなければいけないことは、皆さんがどのような交わりを為しておられるかということです。ここにおられる皆さん、この教会の大きな交わりであって、また、小さなグループの交わりであって、また、家庭という本当に一番小さな交わりの中でも、今日、ともにみことばを見て来たことを実践して行きたいと思います。